

## 第240話 これからの大学生の学びを考える： 私の活動日誌

問い：予測困難な時代における学生が学ぶべきこととは？ 適用＋抵抗×自律

- いまという時代

- 予測困難な時代 / 学校から仕事へのトランジション

- 「教育の職業的意義」

- 柔軟な専門性<適用>と<抵抗>のバランス

- 「起業家のように企業で働く」

- 会社から言われたことをやるだけで終わらない働き方 / 自律

- 学生教育

- 最近活躍しているリーダーの肖像

- 大迫 傑さん(マラソンランナー)変わりゆく駅伝のエース



# 予測困難な時代

- 予測困難な時代

「今、若者や学生は、グローバル化の進展による知識経営の発展、労働市場や産業・就業構造の流動化、情報流通や価値観の変化の加速などにより、将来予測が困難な時代を生きている」

- 学生に求められる力

「学生にとって、大学において**「答えのない問題」**を発見してその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること、あるいは、実習や体験活動などを伴う質の高い効果的な教育によって知的な基礎に裏付けられた技術や技能を身に付けることは、学生が自らの人生を切り拓くための最大の財産となっている。高度成長社会では均質な人材の供給を求めた産業界や地域が今求めているのは、**生涯学ぶ習慣や主体的に考える力を持ち、予測困難な時代の中で、どんな状況にも対応できる多様な人材である**」

文部科学省(2012)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ)



# 学校から仕事へのトランジション

- トランジションとは  
「フルタイムの学校教育 (full-time schooling) を修了して、  
安定的なフルタイムの職 (stable full-time work) に就くこと」
- 日本におけるのトランジションの勃興  
それは1960年代 「学校教育を通して職業を選択し人生  
を形成するというライフコースが、庶民・農家の子供にまで  
浸透」「新規学卒者の一括採用、学校の職業紹介・斡旋  
機能、会社独自のOJT、Off-JTを組み合わせた企業内教  
育の充実、日本的雇用システム」  
⇒安定的なフルタイムの仕事 + 離職率の低下
- 現代のトランジションの状況  
トランジションの構造の劇的変化 学校から仕事へ移行す  
るパターンの多様化・複雑化・社会問題化

溝上慎一・松下佳代(2014)「高校・大学から仕事へのトランジション」ナカニシヤ出版



## 柔軟な専門性<適用>と<抵抗>のバランス

- 柔軟な専門性<適用>⇔柔軟で汎用性の高い能力の過剰な賞賛  
「特定の専門分野の学習を端緒・入り口・足場として、隣接する分野、より広い分野に応用・発展・展開してゆく可能性を組み込んだ教育課程のデザインが必要」(P193)  
例:「和食の世界で修行をはじめた料理人が洋の要素も取り入れ、さらによりよい素材を入手するために有機農業との関わりを深め、ひいては地域おこしの担い手になる」(P195)
- <抵抗>  
「働く者すべてが身につけておくべき、労働に関する基本的な知識」  
「働く側がただ翻弄されるのではなく法律や交渉などの適切な手段を通じて<抵抗する>ための手段」(p11)
- 両者のバランス  
「<抵抗>してばかりでも、一方的に<適応>に努めるだけでも、働くものは苦しい状況に陥る。両者のバランスの上で、働く者が力と声を発揮していくことが不可欠」(P11)



## 会社から言われたことを やるだけで終わらない働き方

- 「企業で働くにしても、「起業家」のように考え、動くことが必要だ。企業において、どんどん出世していく人、あるいは、やらされ感なく楽しそうに仕事をしている人は例外なく「起業家」マインドをもっている」
- 起業家のように働くための志：①出世しなくても良いが、自分の志を持つ②言われたことをやるだけで終わらない③2つ上の上司のイメージをもって働く④組織を使って、世の中で何を成し遂げたいのか考える
- やるべきこと：①会社のビジョンと個人のビジョンの重なりを無理矢理作る②やるべきこと⇒**役割の中でもっとやれること**⇒制約がなければやってみたいこと / マネジメントからリーダーシップへ ③セルフ・リーダーシップ(自律)：すべてのことを自分事と思って挑戦する & 大きな目標を小さな段階にわける、小さな成功体験を積み重ねる←おお、RとCですね



# 自律

- 組織一個人は横並び、対等な関係に変化  
☆会社：個人の能力の発揮と成長の機会を提供（人材が魅力を感じる仕事、キャリア、職場を提供することが必要）  
☆個人：自らの絶えざる成長と会社への貢献にコミット（組織ニーズに見合うエンプロイヤビリティを高めるための自己投資を続ける必要）
- 自律とは  
「自ら仕事を作り出し、自らの責任において行う。結果責任も含めて自ら負っていると意識」＝起業家のように働く
- 自律が求められる理由  
上司、トップが答えをもっているとは限らない。顧客に最も近い現場が答えをもつことを期待されている。必要なのは問題を解くのではなく、問題文を作ること

小杉俊哉「起業家のように企業ではたらく」2015年6月27日 @熊本大学くすの木会館 セミナー資料より



## 学生教育（情報交換会の中で）

- 起業体験の学習  
学生が自分のスキルを活用して、企業や地域の課題を解決する⇒やりがいと成功体験
- ロールモデルの提示  
そのことを通じ、成功者を育て、ロールモデルとして提示していく
- 他の分野でのロールモデルへの感度  
過去の成功者だけを見てもダメ  
たとえば、スポーツであれば、いま活躍している人の特徴はどんなかといったようにいろいろな視点を持つことが参考になる

小杉俊哉「起業家のように企業ではたらく」2015年6月27日 @熊本大学くすの木会館

©2015 天野 慧



## 変わる箱根駅伝のエース

- 大迫傑選手：ナイキ・オレゴン・プロジェクト所属のマラソンランナー / 早稲田大学在学中の2014年に主将として箱根駅伝に出場した。例年、早大は12月に集中練習を行うが、チームとは別行動で米国でトレーニングを行った。
- 大迫選手「どういう思いで最後に箱根に臨むかと問うと、「素直に言ってしまうと、求められる答えはできないですね。ただ、同学年で競技を終える選手もいるので、総合優勝してみんなでいい思い出が作れたらなと思います」と話した。言葉にこそしなかったが、すでに世界大会を経験している大迫の中で、「箱根駅伝」は“特別”な大会ではなくなっている。」
- 渡辺監督「本人が米国での練習を強く望んでいるのです。(中略)今季はトラックで目標をクリアしましたし、僕は『駅伝でも爆走しろ』とは言えないですよ。現地のコーチには1月2日に大切なレースがあることは伝えていますが、箱根駅伝のための練習になることはないでしょうね」

酒井政人「変わりゆく「箱根駅伝」の“現在地点”」東洋経済Online<http://toyokeizai.net/articles/-/27277?page=4> (2015 6/30閲覧)





## 参考文献

- 文部科学省(2012)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ)
- 溝上慎一・松下佳代(2014)「高校・大学から仕事へのトランジション」ナカニシヤ出版
- 本田由紀「教育の職業的意義」ちくま書房
- 小杉俊哉「起業家のように企業ではたらく」2015年6月27日 @熊本大学くすの木会館 セミナー資料より
- 酒井政人「変わりゆく「箱根駅伝」の“現在地点”」東洋経済 Online <http://toyokeizai.net/articles/-/27277?page=4> (2015 6/30閲覧)

